

*** 今日の健康 (6月) ***

< 新型コロナウイルスの現状と今後 (その1) >

4月27日国立感染症研究所発表によると、世界各地の新型コロナウイルスの遺伝子変異の調査から、コロナウイルスは単純計算で平均14日に1度のペースで変異しており、3月中旬以降に日本で感染拡大しているウイルスは欧米から流入した株の可能性が高いことが分かりました。感染研のHPに掲載された遺伝子系統樹を見ると、日本国内での感染の広がりが「見える化」されています。

https://www.niid.go.jp/niid/images/research_info/genome-2020_SARS-CoV-MolecularEpidemiology.pdf

この調査から、1月初旬に中国の武漢市で発生したウイルス株（武漢株）を基点に日本各地に第一波である初期のクラスターが複数発生したものの、すでに消失へと転じ抑え込まれていたことが確認されました。

また、2月5日から本格的な検疫を開始したクルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス」を基点とする株は今のところ乗員乗客以外から検出されていません。クルーズ船は14人の死者を出したものの集団感染の封じ込めにも成功したことになります。このことはクルーズ船における新型コロナウイルス感染症の発症者数と発熱報告数の推移からも明らかです。

<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000599265.pdf>

ニューヨークなどアメリカ東海岸やイタリア、スペイン、フランス、英国など欧州で流行している欧州株は武漢株より深刻な被害を出しており、さらに輸入症例からの広がりや感染経路がたどりにくいだけに一段の警戒が必要です。

日本は今後、国家緊急事態宣言の解除(5月25日)後に、危険な欧米経由の第二波のぶり返しを抑え、輸入を食い止めるため空港や港など水際作戦の徹底が出来るかどうか今後を左右すると思われまます。

